☆１９４７年≪昭和２２≫群馬県多野郡;神流川流域縄文遺跡調査行ドキュメント。

「日本考古学の種蒔く人」酒詰仲男先生を偲ぶ**落葉籠**≪編纂;藪野豊昭≫

☆昭和 22 年
東大人類学教室の
酒詰仲男;45 歳

☆人類学者･酒詰仲男　≪明治３５年;東京市雑司ヶ谷に生れる≫
幼少の頃、母方の「土岐家;美濃の戦国武将末裔」に養育された。東京開成中学卒～昭和2年に同志社大学文学部英文科を卒業。昭和9年～開成中学英語科教諭となり、昭和１４年「大山史前学研究所」研究員となる。☆昭和２２年当時は、東京大学理学部の人類学教室嘱託であった。昭和２９年同志社大学文学部教授に就任。昭和４０年、大徳寺塔頭の書斎で逝去された。享年６３歳。
☆主論文「日本縄文石器時代食料総説」で文学博士「日本貝塚地名表」調査論文;青少年教育「貝塚の話」など著書多数がある。
≪東京帝大人類学科の後に考古学者となる山内清男氏と友人反骨の山内氏は「大杉栄」に心酔；特高警察の追及を受けて山里の洞窟に隠棲。酒詰氏は、資金の供与を理由に逮捕され獄中で真実の歴史は必ず実現されると誓った。戦後、皇居内貝塚調査で誓いは実現された。山内清男氏は東大名誉教授≫
☆酒詰先生は戦後、青少年への日本縄文文化の啓蒙、全国貝塚と遺跡調査に専念された。敗戦後、鎌倉中学に復学「考古学研究部」を設立した、宇野小四郎･藪野豊昭両名を温かく指導下さり、日本縄文文化史の基礎知識と多数の遺跡発掘調査に同行し、薫陶を頂いた。

平常着≪ふだんぎ≫

平常着はいいなあ　誰に見せるものではない　それなのに美しく
それだのにしつくりと身体に合っていて
いつも真心をこめてこの私を守ってくれる　朝から晩まで
遠慮なく忘れることができて　私がお前を裏切っても
お前は決して私を欺かない　どんな姿勢をしても　どんな汚い仕事をしても
お前はじっと私についている　　平常着はいいなあ

※昭和４１年;酒詰静枝さんより御恵贈の≪土岐仲男詩集『人』より≫

☆宇野小四郎略歴≪昭和4年7月１８日;神奈川県鎌倉市に生れる≫
戦争末期、昭和１９年に自由学園中等部から旧制鎌倉中学に転校し、勤労動員先の横浜市戸塚区阿久和村にあった火薬工場「日本火工」合宿寮で藪野と出会い終生の交友を結ぶ。宇野君は当時稀有だった自由学園で考古学を学び、空襲下戸塚丘陵遺跡を密かに探訪した。
≪少年特攻隊志願の藪野に日本縄文文化の存在を教えた≫
☆当時の皇国史観からは、縄文文化研究は非国民的異端であった。昭和２０年8月敗戦で勤労動員解散、≪藪野は特攻教育隊から復員≫
共に昭和２１年;鎌倉中学4年に復学「考古学研究部」を設立した。当初の部員は5名で発足、部報「史葉」を発行。宇野小四郎君配慮で酒詰仲男先生の指導を得た。昭和２２年;鎌倉中学卒、「鎌倉アカデミア第1回生」。昭和２３年「人形劇団ひとみ座」の設立を主導され、全国に活動を展開した。昭和４４年には「(財):現代人形劇センター」を設立。昭和５３年～平成9年にかけて、センター理事長として脚本･演出･調査･研究に専念された。日本の伝統人形劇調査･研究･復元･著作･展覧会を実施「群馬県桐生からくり人形の歴史的位置と意義について」等の研究を行う。著書『日本の人形戯･人形芝居』を銀の鈴舎から刊行。
☆平成２１年;第１５回「ニッセイ･バックステージ賞受賞」日本児童劇協会賞など受賞歴多数。
≪※鎌倉学園高等学校(旧鎌倉中学)では現在も「考古学研究会」が着実に活動を継承している≫

☆1947年≪昭和22年≫7月 31 日～8 月 8 日、神流川流域縄文遺跡調査行参加。
≪皇国史観と殉国に死地を求めた特攻少年の藪野にとって、歴史認識と思想の決定的転機の旅となった≫
日本の先史遺跡と精霊の棲む森と川へ！

「下駄履きの考古学者」酒詰仲男先生との神流川縄文遺跡踏査日録①

☆藪野豊昭
昭和4年2月19日生

☆1947年7月16日＝東京大学理学部3号館人類学教室を宇野･藪野≪当時 18 歳≫は、神流川縄文遺跡調査打ち合わせのため訪問した。
≪酒詰さんは人類学資料室の頭蓋骨棚下で一人寝起きされていた≫
山内先生･和島先生･酒詰先生が在室、鎌倉稲村ガ崎「姥が谷古墳群」鎌倉中学考古学部の調査発掘手順に、山内先生から厳しい訓戒を頂く。
☆上野博物館での石器特別展示を酒詰先生と見学、十石街道調査行の打ち合わせ。酒詰先生に人生初めての旨いコーヒーを奢って頂きながら思う。≪本土決戦の「米軍オリンピック作戦」を予期した日本陸軍は、我々16歳の少年兵を動員し海岸線に潜伏させ、破甲地雷を背負い米戦車のキャタピラーに肉弾攻撃を加える、「人間地雷原」になる筈の運命を分けた8月15日だった「作戦迄後二ヶ月」≫私は、甘いコーヒーの香りに、平和と幸運を実感した。
☆旅の必須物品＝米2升持参･高崎線汽車賃片道27円＋横須賀線8円＝35円×往復70円宿泊費･食費雑費200円＝合計270円～300円位、準備とある。
その他＝リュックサックに土器拓本用品･記録帳筆記具･着替え下着一式など持参だった。
≪※敗戦当時は食料切符があって、旅に米持参は必須だった。だが１９４６年の飢餓栄養失調・食料欠配の絶望的状態からは脱したことが感じられる。また、学生で収入が無いので、東神奈川のプータロウ(進駐軍労務者)に出掛けた日記が見える、一日の労賃は記憶なく握り飯が貰えた事だけ覚えている。希望だけあった極貧の時代である。上野駅地下道に戦災孤児と家を失った人々がいた≫『都の焦土茫々として夏草茂る』

☆第1日＝7月31日曇･雨後晴＝宇野･藪野5時16分颯爽と鎌倉駅出発。上野駅では長蛇の列、待てど暮らせど酒詰先生の姿なし、発車間際に1両目からお～いお～いの声に安堵し座席確保、8時30分新潟行き発車。やがて「本庄駅」と思い意気揚々とホームに下りると、なんとそこは深谷駅であった。駅前からバスに揺られて本庄着、鬼石行きのバスを待つ間、屋台でトマトを齧りながら昼食、何処も同じ同客の話題は食料談義である･･･バスにゆられて鬼石着。現地には美原村中学校教諭で同好の、桜沢重利先生が出迎え下さる予定だが姿見えない。万場行きのバスがあるのも判らず、美原村を目指して二里の道を歩きはじめる。神流川の橋を渡ると、渓谷の岩盤全て見事な「秩父片麻岩」であった。エメラルドの淵と雨に濡れた青葉が織り成す絶景。向かいの谷間から霧が立ち登る情景は、まさしく桃源郷であった。また村道の石垣には1,8m.はあろうか、文明元年銘の緑泥片岩製巨大板碑があり、同行三人驚嘆した。
≪下久保ダム神流湖が出来て、あの感動的な情景はいかに変貌したのだろうか？≫
☆夕暮れ迫る美原中学に到着したが桜沢さんの連絡取れず。夜になって「飯島勘一校長」が来られ教職員を招集、宿直室での宿泊準備を頂く。清流で沐浴し、飯盒炊飯の夕食とした。
また鮎取りの好きな、河野先生は神流川の鮎30尾程を持参下さり、美味しい塩焼きを頂戴した。
神流川の鮎捕りには「めくら釣り；あんま刺し」と「鮎の引き釣り；流し釣り」があると説明された。
酒詰先生からは、鮎は独特の香りを持つ故に『香魚』と呼ばれる。と、初めての伝授を頂いた。
≪現在の自分だから言えるが、利根川河口から２百キロ余の天然遡上「一番子」なら８月は２０cm 近いはず。頂いた鮎は１３ｃm位の小鮎だった？≫これを解く鍵があった。
≪同志社大学リポジト紀要論文「群馬県神流川流域の遺跡」人文学第14号；酒詰論文の余禄に『この地域には発電所の水取り口の付近に魚悌もあり、鮎は毎年多量に放流されている』と、記録されていた。戦中も？電力会社は補償で海産？稚鮎放流を行なっていたのだろうか？≫
夕食後は、教員室で飯島校長から十石街道沿い縄文遺跡の分布概要説明があり、酒詰先生から、関東平野の縄文文化と山岳縄文文化を結ぶ「十石縄文路」の重要性が提起された。また教育者は子供達への日本縄文文化の教育と歴史認識啓発が大切だと、話題は尽きなかった。
初めての調査旅行に疲れ夢うつつ、多野郡保美濃山･美原村中学校で第1夜の夢を結んだ。

神流川縄文遺跡踏査日録②

☆第2日＝8月1日晴＝早朝、美原村中学付近の発掘出土遺物を視察。飯島校長の案内にてバスで出発。坂原遺跡を踏査して美原村村長の榊原鷹司氏に挨拶する。ここで初めて、桜沢先生と出逢った。午後は、保美濃山遺跡を実査、夜は飯島勘一校長宅に宿泊させていただく事になった。
飯島家は、山腹にある旧家で、囲炉裏のある広間一杯に油絵が並んでいた。これは沖縄米軍に突入した神風隊員だった三男が師範学校時代に画いた遺作です、と飯島先生は説明された。黒々とした梁に掲げられた2階級特進21歳の遺影は、月光に浮ぶ土蔵の白壁と6頭の羊、美しい山並みや星空に寂寥の思いを深めた。
夕餉は、玉蜀黍粉･薩摩芋･手打ちうどんの大御馳走にあずかる。この地域では昔、死期の近い人の耳元で、竹筒に入れた米を振って見送る「振り米」の風習があったと話された。
酒詰先生は何時も手元にある野帳「手帳」に、座敷間取りデエ･オクリ･方言の≪何々ジャ～≫≪そうじゃむし≫≪いぐ･ひやる≫≪えんぐわー≫≪やなーしょいこ≫等、聞き書きされている。
食後は「縁」に出て、土器編年の成立と炭素14の年代測定問題などを話された。　爆睡なり。

☆第3日＝8月2日晴＝7時半のバスで譲原に向かい分教場の職員が出迎えくださる。同校敷地内出土の遺物を視察。土偶･石器･土器の分類＝「堀ノ内式」最多、加曾利B式にかけての後期縄文遺跡だった。酒詰先生は測歩で包含地と住居址測定、昼食は馬鈴薯、山清水でのどを潤す。同行者は酒詰先生･飯島校長･桜沢先生･宇野･藪野の5名。午後5時「万場」に入り、万場小学校宿直室宿泊。≪酒詰先生は砂利道を下駄でバッシバツシ歩かれる！≫

☆第4日＝8月3日(日)晴＝万場小学校出発前に、全員で河岸段丘上のスゴウ遺跡･山の神を見学調査し石器少々採取。新羽行きバスに乗車≪偶然に上野村西小学校の橋爪松治校長の息子さんと同車したのは奇遇であった≫私達は途中の「神ヶ原＝かがはら」に下車し、遺跡調査、万場村役場に立ち寄って昼食を取り･酒詰先生は昼寝をされる。
午後、川向いの「三津川遺跡」を調査。終バス終点「新羽ニッパ」に登り、午後6時過ぎには「上野村東校(小･中学)」校舎に到着した。今夜は校庭で、教育映画の上映会があるという。宿泊は東校の宿直室に決定し飯盒炊飯で夕食。ここでも学校の先生が「香魚」数匹を引いて来られ酒詰先生に進呈した。校舎の裏は美しい神流川、岩陰でカジカが無数に鳴いている。汚れたシャツ靴下の洗濯を済ませ、映画会の校庭に行き「十石犬」を初めて見る。≪優れた狩猟犬で「縄文犬の特徴を残している」と聞く≫純粋種は急速に減少しているとの事だった。校庭には、復員青年や十石美人≪目に特徴のあるモンゴリアンフエイス;おかめ顔である≫も三々五々集まって野外上映会は盛会であった。神流川のカジカを聞きながら夢路を辿る。

☆第5日＝8月4日(月)晴＝早朝元気一杯「野栗沢遺跡」を調査したが、明瞭ではなかった。酒詰先生は引き続き「上野村村長の塚田武雄氏」を訪問され、村長の案内で「今井平遺跡」≪字;新羽≫を調査して「諸磯式土器片」を採取、神流川最奥の前期縄文遺跡と確認された。塚田村長の畑「稗畑」に土器片散布が集中し、住居址も存在する可能性があるとの酒詰先生判断であった。塚田武雄村長は、所有地の稗畑≪2箇所≫の試掘調査を快諾された。
また、結論を聞かれた東校の中林校長は強い関心を示され、上野村東校の小･中学校職員総動員による、「新羽;今井平遺跡試掘調査」の全面支援が急遽決定された。
午後から2地点1,5m四方を20cm層位で発掘し、出土土器は「前期縄文の諸磯式」を主体に早期の茅山式･中期の加曾利Eを含む350余点の土器が発掘された。中学女性教師の方々は蒸じゃが芋を差し入れ下さるなど、全校挙げて発掘支援を頂いた。発掘後、宇野･藪野二人は神流川で土器洗いに専念、夕餉は手打ちの味噌うどんを頂戴した。満天の星空であった。

『清流に土器洗えば縄文人の指跡たしかに』

神流川縄文遺跡踏査日録③

☆第6日＝8月5日晴･一時雨＝朝全員神流川の河原で洗面。『カジカ鳴き朝霧立ちこめて涼風』
朝食は麦飯に、桜沢先生手作りの味噌汁を頂く。
酒詰先生は午前中に、新羽今井平遺跡の歩測に出向かれ。その間、宇野･藪野は昨日の出土土器の概略分別を行なった。
酒詰先生は11時から、昨日の今井平試堀に関して教職員各位に、遺跡の解説と「日本石器時代文化･人類学上の日本人･住居と生活様式」を講話された。
昼食後発掘土器の分類を行い、発掘資料は全て上野村本校に保存して頂くことを決定した。
☆午後2時;上野村西小学校を目指して出発、桜沢さんは昨夜からの体調不良で残留した。
同行は美原中学の飯島校長先生と4名、桜沢先生のピッケル姿の無いのは残念であるが、リュック姿も颯爽と“ひのき峠”付近で城山を一巡、「乙父オッチ」遺跡を視察し「貫前ヌキサキ神社」にある、石棒を視察調査した。
岩盤の急坂を酒詰さんの下駄が踏みしだき、飯島さんの革靴がゆく。途中荒船山方向から、涼風を巻いて雨雲がきた。前方に小春部落が見え、飯島先生の知人宅で雨宿り、雨はしばらくで止んだ。山仕事のトラックは通るというが、道は渓流に沿い蛇行する厳しい山道である。
夕刻近く、道で美しい女性教師に出会い西校の橋爪松治校長の所に行く途中との事だった。
まもなく最終目的地の西小学校宿舎に到着、橋爪校長に挨拶し、揃って夕食の馳走になる。
酒詰先生と橋爪校長は過って、貝塚調査で数ヶ月間ともに過ごした旧知の仲であった。
≪西校の標高は約500m≫橋爪先生は、ここは朝夕涼しく「蚊」も少ないとの事だった･･･が。
橋爪先生は今夜、さらに上の「白井」という村で「幻灯会」があると言われて出掛けられた。
山村での教師生活も並大抵ではないと思いながら、山峡の月を眺め、考古談義は尽きない。
橋爪先生は夜10時頃帰着され、同行4名は11時には就寝した。･･･が、やはり蚊は煩かった。
明日は石灰岩洞窟「生犬穴オイヌアナ」探検計画、この西校敷地にも縄文遺跡があるらしい。
≪※厠が凄い、数メートル落下する豪快さ？で「大」を投下するには勇気が必要だった≫

☆第7日＝8月6日晴＝酒詰先生は、昨夜はいないはずの蚊に襲われて寝苦しかった･･･と、普段になく遅い起床。山際の清冽な流れに並んで洗顔、朝食のおかずは橋爪先生心尽くしの断崖に生える珍味「岩たけ」と味噌汁を頂戴した。≪岩たけ取りは命がけの仕事だと聞く≫
出発までの時間に、近所にある橋爪先生の本家≪地域の豪族？≫という旧家『黒澤屋敷』を案内頂く、黒光りの囲炉裏に20cm程のイワナが刺してあり、山陰を圧する暗い屋敷だった。
✿飯島先生は「生犬穴」探検用に、炬火を作っておられる。
小春の飯島さん知人宅に荷物を置き、同家子息「藤岡中学生」の案内で生犬穴に向う･･･。
岩の多い神流川源流を渡った。この付近はサンショウウオが沢山いて、生で喰うと言われた。
山腹を上下し、やっと小さな洞窟入り口を発見。炬火を掲げ、宇野さんが先頭に、次ぎには酒詰さん、そして藪野のシンガリで狭い入り口を潜った、梯子があったと言うが壊れている。
狭い入り口を入ってまもなく深い穴があり、先生は滑って泥だらけになり、擦り傷も負っていた。
これでは穴底にあるという「転落動物」になり兼ねないと、洞窟遺跡の可能性を探る生犬穴の探検を中止した。≪この鍾乳洞は近くの「不二洞」と共に群馬2大鍾乳洞で、昭和4年に地元少年4人が偶然発見、狼？の骨があり山犬の棲家と呼ばれていた。酒詰先生は、転落動物の骨であろうと推測された。その後鍾乳石の盗掘が激しかったが、現在は厳重保全される≫
✿強行軍で2里を降り11時に、上野村東校に帰着した。新羽「今井平出土土器」を最終分類され、宇野･藪野は残留して拓本の制作石器スケッチを担当する事とした。
先生方3名は、バスで万場～鬼石行きを乗り継ぎ「太田部遺跡」を調査され夜半に雨の中を保美濃山･美原中学校に帰着されたという。

神流川縄文遺跡踏査日録≪終回≫

☆第8日＝8月7日晴･後雨＝宇野さんと飯盒炊飯。一番バスの停留所で十石犬3頭を見た。保美濃山着、出土品拓本とスケッチに着手。酒詰･飯島両先生は「譲原」に向われ、美原村小･中学校職員に「日本縄文時代入門講義」をされた。宇野･藪野も合流し譲原分教場出土遺物の拓本スケッチ作業を担当。昼食後に雷雨襲来して、神流川は忽ち茶色の濁流となった。万福寺住職の息子さんは河野先生で、同寺に宿泊する。久し振りの風呂を頂き、夜遅くまで桜沢先生の考古珍談･珍説に話題は尽きなかった。『十国の月照らし縄文人も満天の星』

☆第9日＝8月8日晴＝譲原分教場にて朝食、山深く水清く心優しい人々との思い出を胸に十石街道と神流川に別れを告げる。前日の雨に洗われた十石の山々は、美しく輝いていた。飯島校長･桜沢先生も、共に語り共に過ごした日々は、二度とは返らない九日間であった。
『別れの朝は山盛りの飯茶碗』
✿10時、バスにて鬼石に向う。鬼石町入口の三杉町「原の古墳」を見学、飯島校長･桜沢先生万福寺の河野先生に見送り頂いて、正午のバスで本庄に向って出発した。
『バスの背消えるまで別れの手があって』
☆本庄駅に到着した3名は、食料･宿泊料も殆ど必要なかった調査行だったので。酒詰先生の提案で旅程を伸ばして、足利から霞ヶ浦周辺の遺跡を調査することに一決した。7月31日から8月13日まで、生涯無二の旅となった。☆『蓬髪に眼光鋭い下駄履き中年男と･リュックを背負った中学生二人』のコンビは不思議な道行だった。『村道に怪しむ目の駐在追ってくる』

≪※この文書は１８歳の少年が記述した日記故に事実誤認や見苦しい所は御容赦下さい≫
≪※今回；同志社大学 homepage から検索発見した酒詰論文の所在は以下の通りです≫
☆「同志社大学ﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘ」＝Doshisya Univercity Academic Repository にて検索した。
研究紀要論文＞人文学＞書籍一覧＞下位書籍一覧＞書籍詳細⇨一覧見る～本文見る。
「人文学第14号」文化学術特集1954－酒詰仲男『群馬県神流川流域の遺跡』P59－pdf

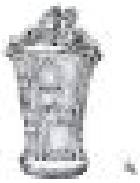
☆この日録を編纂する直接の契機は、2006年12月2日「立教大学池袋キャンパス」で開催されたブラックバス問題シンポジュウムの一環とし、生物多様性研究会「秋月岩魚氏」主催の内山　節『釣り人の哲学塾』に参加、基調講演で哲学者;内山さんが語った言葉であった。
≪私は釣り人の一人です、群馬県上野村で里の人々との心の連帯を重視し、本来の自然と河川の姿を取り戻す試みにも参加しています。今後もこの考え方と行動を継続したいと思います≫初めて出逢った内山さんに不思議な縁を感じた。

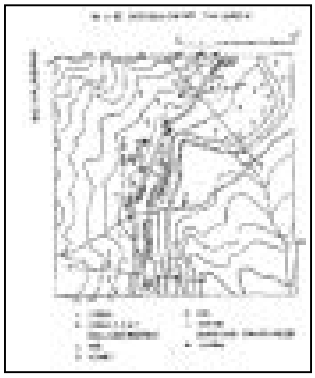
☆その後、内山節著『里という思想』(新潮選書)を読んで上野村に住み農耕の中で里人と連帯を育み、人と自然を愛する、巧まぬ理念と思想のあり方に深く感銘した。
≪だが、63年の歳月は「神流ダム湖」によって、美しい神流川;保美濃山周辺の情景は、激変したに相違ない。美原村に登る橋の上で驚嘆した情景は、夢･幻と化した。364世帯の故郷は、恨みと共に湖底に沈んだと聞く。この旅で心を結んだ同好の友人達も、ダム建設に激しく抵抗して、思い出の水没遺跡に涙をのんだに違いない。多野郡にあった美原村は、町村大合併で三波川村と共に鬼石町に。更に2003年、万場村と中里村を吸収して「神流町」と改称。2006年には鬼石町共に藤岡市に編入されたという。なんという、激しく空しい変転であろうか≫

☆今思う事は敗戦直後の混迷の中、情熱と愛情をもって『縄文人を自から直接の祖先と信じた』学究と里人が固く友情を結んだ記録を、内山先生との不思議な縁をもって、「心の桃源郷」への連帯の証しとします。　　藪野

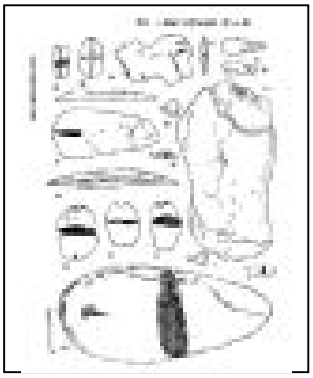
≪☆山内　節、1950年東京生れ･立教大学大学院教授;哲学専攻≫

☆1947年度;神流川縄文遺跡主要地点の出土遺物①

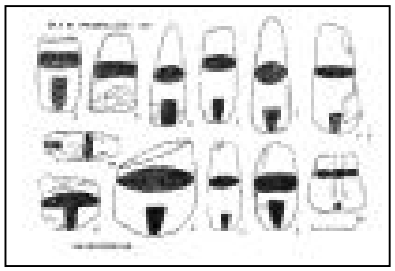




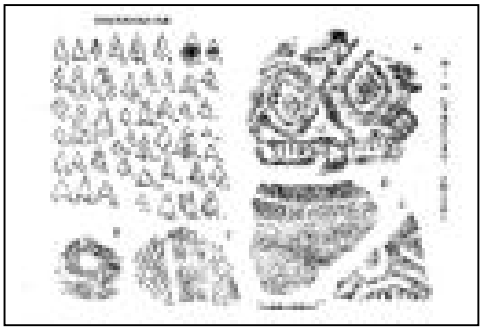
譲原遺跡付近略測図



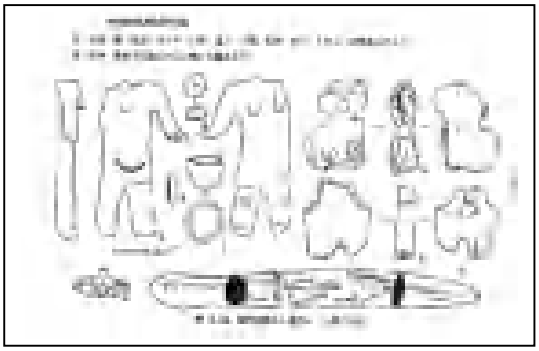
譲原遺跡出土石器



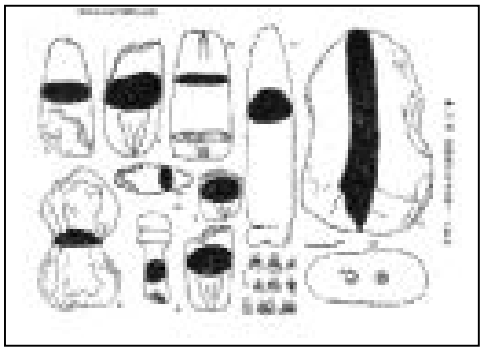
譲原遺跡出土石斧



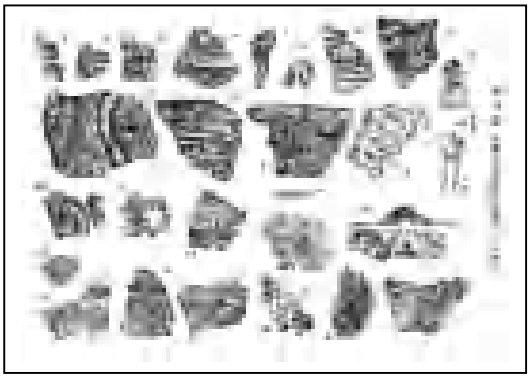
譲原遺跡出土の石鏃･加曾利 E･堀之内式土器



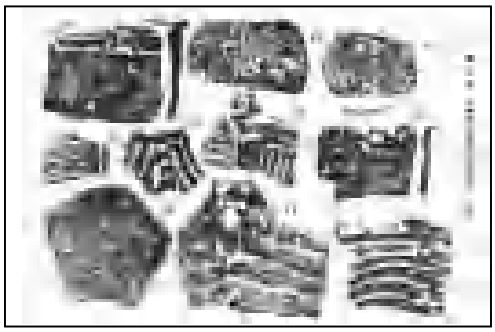
譲原遺跡出土の土偶･石匙･石剣･その他



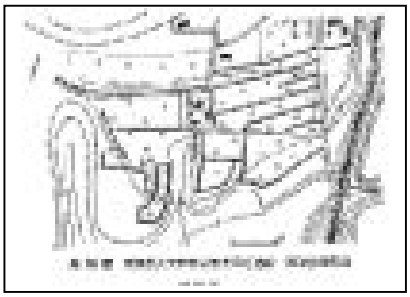
保美濃山遺跡出土石器類



保美濃山遺跡出土の･諸磯式･勝坂･加曾利 E 等

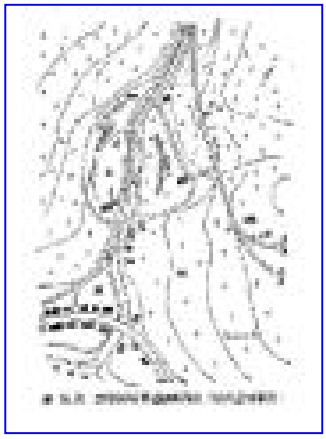


保美濃山遺跡出土の･堀之内式･加曾利 B

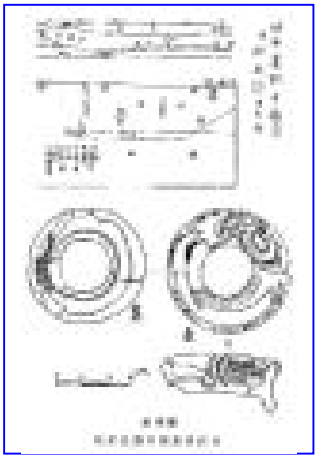


保美濃山天理教分教会付近遺跡図

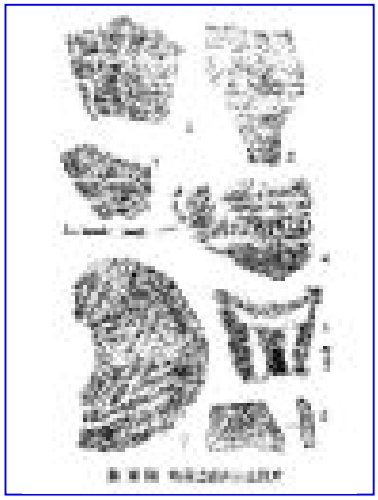
☆１９４７年度;神流川縄文遺跡主要地点の出土遺物②



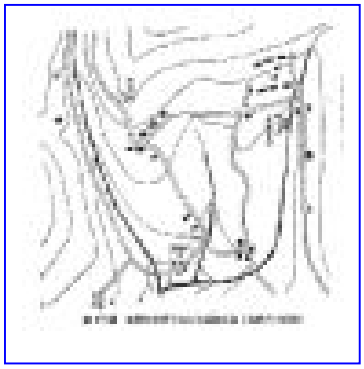
美原村坂原遺跡略測図



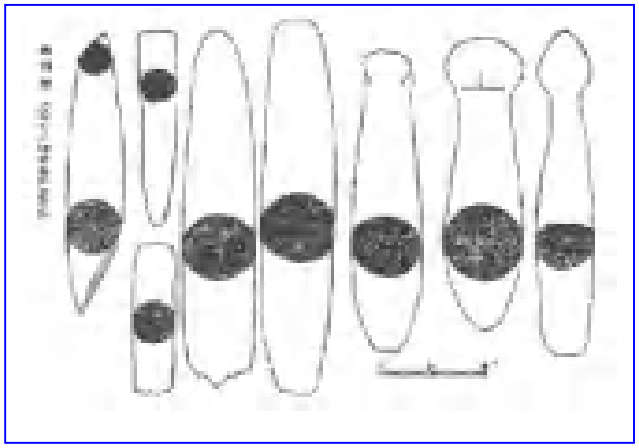
美原村坂原遺跡出土朱塗耳栓



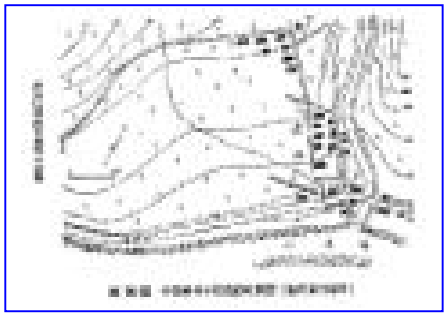
美原村坂原遺跡･安行式土器群



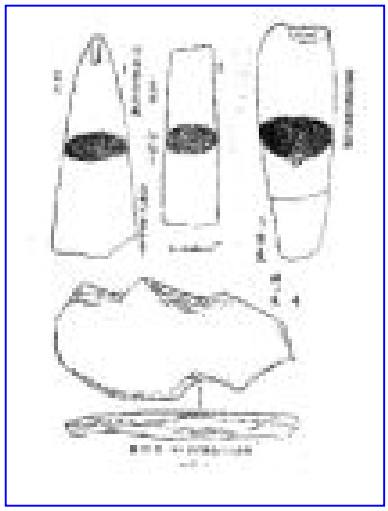
美原村坂原･法久峰遺跡略図



万場町八幡神社所蔵の石棒(出土地不詳)



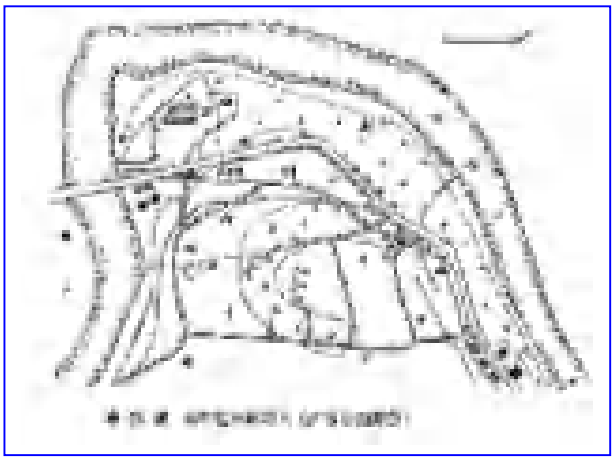
中里村神ｹ原遺跡略測図(何れも桜沢氏原図)



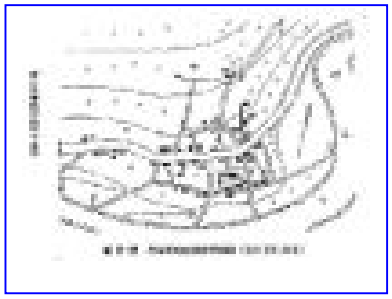
中里村神ケ原･乙父遺跡出土石斧

☆保美濃山遺跡の中期縄文住居址

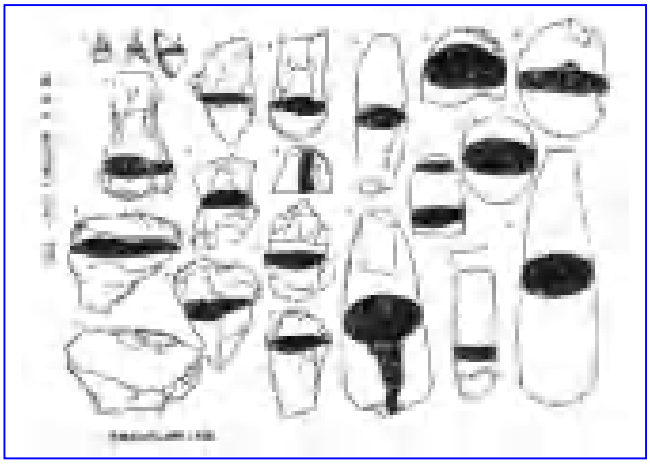
☆１９４７年度;神流川縄文遺跡主要地点の出土遺物③



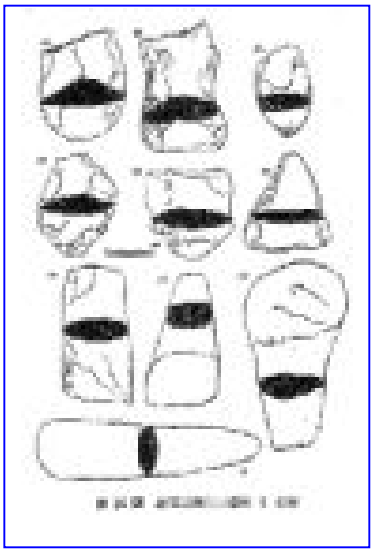
☆上野村「新羽ニッパ今井平」遺跡;酒詰仲男歩測原図



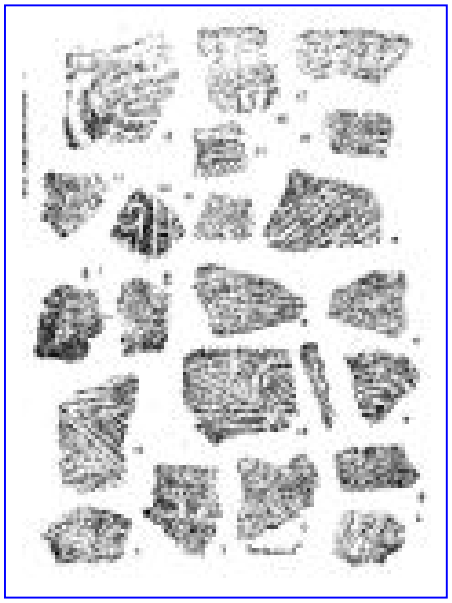
(万場町相原遺跡は翌２８年に発掘)

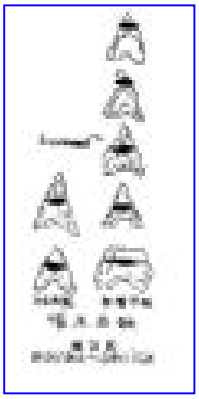


上野村新羽遺跡出土の石器類(緑泥片岩製多し)

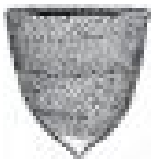


新羽遺跡出土の石斧(諸磯系)





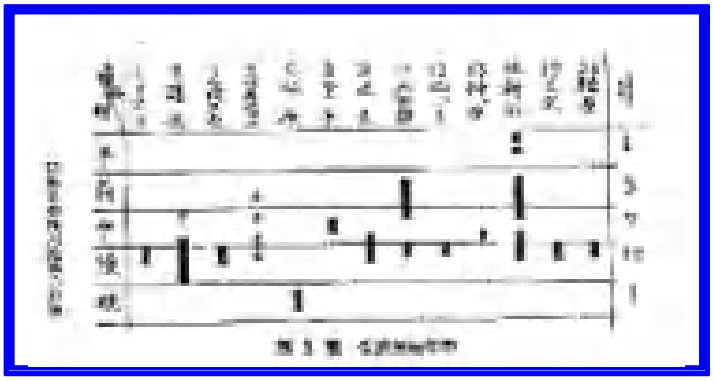
新羽遺跡の石鏃



新羽遺跡発掘土器(早期の茅山式や黒磯･前期の諸磯式主体)➔

☆翌昭和２３年夏･酒詰先生再訪して、塚田村長･中林校長の応援を得、諸磯式住居址を発掘。この時、縄文早期の田戸式土器･楕円押し型文土器も出土した。新羽遺跡は、早期縄文時代から後期まで引き続いて居住した事が証明された。他の譲原･保美濃山も同様発見の可能性があると付記されている。

☆１９４７年度;神流川縄文遺跡主要地点の編年と付記事項

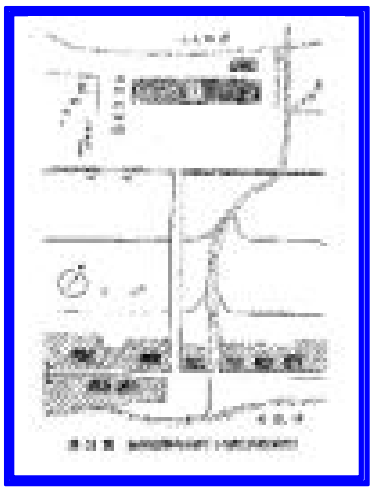


☆1947 年～1948 年;神流川流域縄文遺跡の編年表

☆縄文犬の特徴を残す
幻の十石犬

戦前、柴犬の代表と言われた名声で、愛犬家が村を訪れ現金収入の少ない村人から、子犬を高額で買い取って持ち帰った。
また戦時中は軍の徴発撲殺令もあった。しかし、十石犬にとって、最大の危機は戦後、進駐軍相手の愛玩犬ブローカーが、多数の子犬を持ち出したのが十石犬の衰亡に拍車をかけたという。
2006 年現在、上野村では10数頭が保存会によって飼育されている。(十石犬保存会ニュース)

☆上野村楢原遺跡「西校敷地
黒曜石片･土器片の採取あり。



☆乙父千日堂;釈迦如来坐像

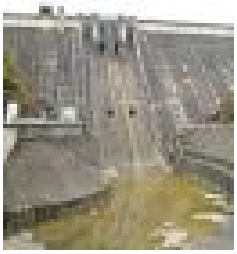
『かたくりも太陽の距離で咲いている』

上野村楢原;旧黒澤家住宅

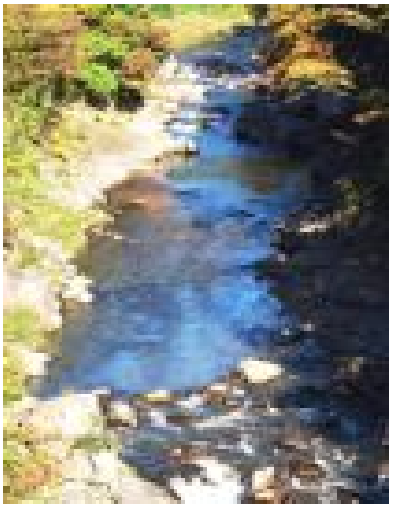
☆『昭和４５年(１９７０年)國の重要文化財に指定☆
天正１８年(１５９０年)徳川の関東入国後に山中領を上山郷･中山郷･下山郷に分けた。
黒澤家は代々「上山郷」の大総代を務めた旧家で、現存の母屋は座敷数や玄関の構えからも「大総代」の面影を伝えている。≪当時はもっと荒れていた≫
☆当時の上野村は幕府直轄地で、広大な森林と将軍の鷹狩り用の「巣鷹」献上地に指定され「御鷹見衆」以外は入山禁止の山は『御巣鷹山』と呼ばれた。
☆水田はなく、「米無し山中領」と呼ばれ、米･酒造米は信州佐久から、人馬の背で運ばれた。その一日の荷駄が十石であった事から十石街道と呼ぶ様になったと言う。

十石街道･神流川の現状;上野村商工会 homepage 記録画像集より、

☆神流湖の姿と
下久保ダム
1965 年着工
1968 年完工
設置場所は
二転三転し
反対は激しかった。



☆このダム湖の存在価値は;失った自然や景観と歴史の大きさに比して、何程のものであろうか？
いま神流湖はレジャーと土建国家の肥溜めとなり、哀れなブラックバスの養殖池に転落している。



☆上野村を中心とした山里に、あの美しい自然と里人の優しい笑顔が生きていると信じたい。

☆内山　節≪たかし≫先生は1970年代に渓流釣りのため上野村訪れ、里山の人と自然に魅了され楢原に住いを定められたと聞いた。いま農耕や山仕事の中で「里の連帯」を育んでおられる。
人類は、膨大な殺戮兵器･人間中心の思想･強食弱肉の経済･地球規模の絶滅戦争と環境破壊のカタストロフに直面している。また毎年３万人もの自殺者のいる、今日の日本も尋常ではない。
内山さんは、著書『里という思想』の中で≪歴史を尊重できる民族は歴史から負の教訓を学び取り、他民族の多様性も尊重できる。歴史という深さを持たない民族は、他民族の歴史も尊重できないし、傲慢独善となって暴走し自滅する≫と、警告されている。いま上野村から真実の平和と新しい共同体をめざす連帯の思想が、生まれ育つことを祈りたい。
☆日録から63年、酒詰先生が亡くなられて43年の時が流れた。当時「国造り神話」と神風の虚妄は打ち砕かれ、私達は日本の誇る真実の歴史を縄文文化の再発見によって目覚めたのであった。
当時の、山里の教育者の情熱や悔恨が伝わってくる。今回偶然に発見できた酒詰論文の存在も、人と人の縁の不思議さを深く感じさせる。日録に登場した方々や縁者の何人が御存命だろうか？
若者に真実の歴史と哲学を与えた酒詰仲男先生の生涯に、感謝をこめてこの文書を捧げる。

2010 年 2 月 19 日；藪野豊昭≪８１歳の日に≫

本文記録に関する WebSight 並びに登場頂いた方々の近況。

☆同志社大学学術リポジトリ「研究紀要論文」WebSight 検索ページ、
http://elib.doshisha.ac.jp/japanese/index.html
☆同志社大学;文学部文化学科・歴史資料館
〒610－0394　京都府京田辺多々羅都谷1－3
同志社京田辺キャンパス;自然系実験・実修棟≪考古学研究室≫1996 年開設、
「研究室の歩み」初代;酒詰仲男教授・2代;森　浩一教授・3代;松藤和人教授。
http://hmuseum.doshisha.ac.jp/database/html

☆群馬県多野郡上野村商工会サイト提供「文化財」画像データの所載。
http://www.uenomura.ne.jp/ueno2254/html
☆内山　節先生;上野村哲学塾
〒370－1617　群馬県多野郡上野村楢原712－1
ueno2129@uenomura.ne.jp

☆宇野小四郎先生「人形劇団ひとみ座」団友・国際人形劇連盟名誉会員
(財)現代人形劇センター顧問
〒211－0035　神奈川県川崎市中原区井田3－10－31
hitomiza.jp/gaiyou.html　puppet@hitomiza.jp

☆著書「日本の人形戯・人形芝居」は、北海道から沖縄まで、三百余箇所に伝承の古典からくり人形の歴史を踏査記録した稀有の辞典文献であります。
☆今回の「神流川遺跡調査日録」に記録した通り、酒詰仲男先生が残された、縄文遺跡踏査の理念や地域との密接な交流調査手法を、正しく継承された宇野君の偉業を、久しい友としてここに讃えます。

※

☆【2009年度・第15回;ニッセイ・バックステージ賞】
顕彰目録より;「人形劇プロデューサー宇野小四郎」
≪略記≫
☆(財)現代人形劇センター理事長として、人形劇の公益事業に貢献。脚本・演出を多数手がける一方で、全国各地に伝承されている伝統人形劇の調査・研究復元に尽力、呪術的傀儡から民衆芸能への経緯など研究者としての考証を、書籍・講演覧会で発表した。
新しい分野の開拓では、1970年代には人形劇専用小劇場「プルチネラ」を渋谷にオープンさせ、斬新な人形劇の発信基地とした。
1979年には長野県飯田市で、行政・市民・人形劇人三位一体の新しい形の人形劇フェステバル「人形劇カーニバル飯田」を設定し、全国の治自体にも影響を与えた。1980年代に「デフ・パペットシアター」を設立日本唯一の聾者と聴者が協働する、専門人形劇団で全国公演を行なって、国際的にも注目をあびている。
伝統・現代・創造・制作・調査・研究、などを縦横に結び、常に人形劇の世界に衝撃を与えている。

☆人形劇団「ひとみ座」創設当時の記録

≪何処に行かんと問うならば　この世の果てと答えなん　傀儡の守神;百太夫より≫

☆激動の昭和を不思議な縁に生きる≪藪野ドキュメント≫

☆1929年･名古屋市港南区;東邦電力火力発電所社宅で、電気技師の次男に生まれる。父･結核療養の為一家南知多河和村に移住、1934年;父は41歳で死去。藪野当時5歳。≪孤独な僻村で山と海の昆虫や魚に魅了され･自然の不思議さ美しさは生涯の友となる≫母親は2千羽養鶏場を経営するが、満州事変の勃発で米国産飼料が途絶高騰し閉鎖する。1938年･生活に困窮した母子4人は、親類を頼り鎌倉に移住し御成小学校3年に転校した。☆1941年「大東亜戦争」勃発;鎌倉中学入学。学業は農業動員～1943年勤労動員令で横浜市戸塚区阿久和村の「日本火工」≪照明弾工場≫寮に合宿、宇野小四郎君に出逢う。宇野君は自由学園で考古学を学んでおり、休日は空襲警報下も2人で縄文遺跡を歩いた。☆1945年春、兵庫県加古川航空通信隊入隊。航空機は壊滅し肉弾特攻訓練に終始した。「新型爆弾の噂」と、姫路空爆炎上し警備出動。廃墟の上に残る白鷺城に敗色迫るを感じた。8月15日≪敗戦の日は父の命日≫敗残兵は夜半石炭車で帰郷して、中学4年に復学した。1946年中は食料配給遅配･飢餓栄養失調を生き残った。宇野君と「考古学研究部」設立し1947年には、酒詰先生の教導を頂く。日録「落葉籠」記述した通り、日本縄文時代と遺跡調査に心酔熱中した。≪☆考古学部員卒業生には、旧石器研究者の『吉崎昌一氏』がいた。明治大学卒～札幌博物館学芸員～北海道大学教授に就任。旧石器捏造問題の調査団長･「萱野　茂」アイヌ民族文化講座世話人としも活躍された。(1931生れ～2007享年76歳)≫☆米軍占領下の横浜浅野ドックサインペインターに従事し、屈辱的な条件の中で生活する。☆1948年;横浜市金沢区「日本製鋼所横浜工場」鋳造工場に就職、労働組合活動に入る。文化部に所属、工場直近に海軍高射砲台で破壊された「野島貝塚」があり、宇野君と調査し多数の土器･獣骨･骨器を採取し文献報告した。また、労働組合主催の文化祭で人形劇団「ひとみ座上演」を実施、工場内にショックを与えた。三鷹･下山の不気味な事件が多発して米ソ対立と政治闘争が激化、1950年の朝鮮戦争に向い組合活動家排除により馘首された。

☆朝鮮戦争勃発し、反戦運動に参加。後に中学同級生が米軍特務機関指示で藪野を尾行していたと語った。≪CIE 後のCIA≫小学校友人･進駐軍労組役員で反戦活動中の「小池幸男君」は、突然行方不明となる。

☆1946年鎌倉駅前の進駐米軍MPとジープ。

☆1952年;鎌倉の知人でキリスト者の特許事務所長「藤田実男氏」配慮で東京丸の内の法律事務所に図面係りとして入所した。1954年;歌声運動の原水爆禁止米軍基地反対の活動に参加し、公安調査庁の追及を受けたが、「市川一男所長」の温かい支援と庇護を頂く。≪口語俳句運動の主宰者で、酒詰仲男先生を招き、遺跡探訪会も開催された。また敗戦直前、妹さん一家は鵠沼で米艦載機投下の爆弾直撃を受け一家全員跡形も無く飛散爆死されたと語った≫

『亡くなった人は生きている人々が思い出す毎に帰ってくる』市川一男

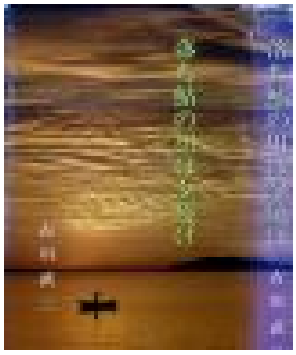
☆1960年;富山出身の詩人「瀧口修造」を画家･志賀丈二氏に紹介され強い影響を受ける。☆1963年;特許法律事務所退職、同僚の池辺　洋さん≪女優:香川京子さん兄≫と数名で、デザイン事務所「フォルム社」を神田に設立した。そして3年間、苦闘の末1966年解散した。≪1964年;酒詰仲男団長とする、同志社大学ボルネオ調査団に支援をお送りしたが、翌年逝去の通知【献体された】を頂いた。生活に追われ、仏前に回向出来たのは5年後だった≫☆知人紹介で、東京都葛飾区にあった業務用アルミ器物製造「大国アルミ」企画部に入社。放漫経営のため1年で倒産、組合幹事長とし組合員の再就職処理に当たった。この経緯で「富山県高岡市:北陸アルミニュウム㈱」の荒井三郎社長との、運命的な出逢いに巡り合う。☆1968年4月;同社企画課長として、富山県高岡市本社に赴任。≪当時39歳≫以降は、学歴を問わず引き立てて頂き、高岡市の歴史に係わる重要な企画業務を担当させて頂いた。1993年までの25年間、『明治の気骨と信念の人』荒井三郎氏の恩義に深く合掌します。

☆歴史と伝統･鋳物の町;富山県高岡市そして庄川一筋の鮎と毛鉤物語り。

☆1985年≪昭和60年;56歳≫3月･高岡市の歴史的中心街、金屋町千保川に架かる「鵬鳴橋」改築デザイン化事業に加わり四隅に立つ「親柱」デザインが地元代表によって採択された。
高岡の歴史と伝統に感謝する「合掌の形」を形象したデザインが銅器鋳造によって完成、高岡市の象徴として盛大に落成された。
≪これには、金屋町の貧しい家庭に生まれ、銅器職人として出発された荒井三郎氏への感謝の思いを込めた造形でもあった≫
※念のため申し添えるが、この計画には著名なデザイナーが多数参画しており、提出された案が何れも地元代表に否決されて、窮余の一策でピンチヒッターとして最後に選ばれたに過ぎない。
誠に不思議な縁によるもので、高岡25年唯一の遺産となった。

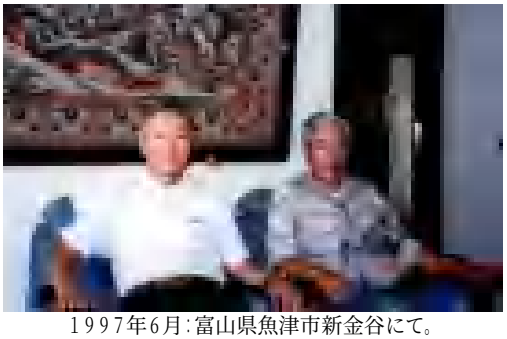
☆1980年の初夏、台風が富山を通過した。庄川が激しく増水した数日後、業務の帰り車で「南郷大橋」を通りかかった。
ふと河原を見ると、中学生らしい少年が一人、増水で出来た溜りワンドの上で何かキラキラした小魚を釣っている。
河川敷を降りて声を掛けた「なにつっとんがけ」、「アユやちゃ」と答える。短い竿先には餌ではなく毛鉤が2～3個見え7～8cmの鮎が入れ食いである。「エ！鮎が毛鉤で釣れる！」
「毛鉤ちゃあ･どこでうっとんがけ？」「戸出の○×屋にいかれ！」と答えた。これが私の、鮎毛鉤釣り初代師匠であった。
☆これからは休日≪当時は土曜も休めなかった≫と、終業後の夕釣りに嵌り込んだ。川に立つと仕事の悩みも暮らしの算用も消え、少年時代の輝く自然と共に過ごした時間が蘇った。
鮎の毛鉤釣りは「実績や評価の日常に萎えた心を、生き返らせてくれる」希望の力となった。

☆『落ち鮎の川は夕焼け』≪1991年;古川武二自費出版≫



1993年≪北陸アルミを定年退職し≫富山を去る2年前に、魚津の心美しい釣り人に出逢った。≪著書と文通だけではあったが≫
☆鮎毛鉤釣りの道に入り30年余、この釣りを「詩」に近付けたい。
「数釣りを競う遊びやスポーツではあり得ない」と固く信じている。
この著作は≪釣法や毛鉤の選択も書かれては居るが≫　正しく、私の理想とする、鮎の毛鉤釣りの日々を、人生の悲しみや歓びの凝縮として捉えた、知性と『詩情』溢れる美しい作品であった。
☆日本鮎毛バリ釣り団体協議会に所属し19年余、数百人の毛鉤師に出会ったが、毛鉤釣りをポエジーとする思想を心に秘めた人は希少であった。またお逢い出来る日を、心に祈っている。

≪古川さんは当時･魚津市市議会事務局長･魚津市役所釣友会会長;富山県魚津市駅前新町10－11≫

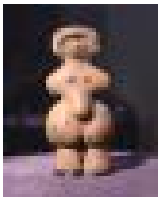


1997年6月:富山県魚津市新金谷にて。
≪片貝川釣行;古川武二氏と藪野;7年目の初対面≫

☆江戸元禄から三百年余の伝統釣法「鮎毛鉤釣り」

わが心の「桃源郷」;二つの里山と故郷の風景より、

上野村の獅子



☆日本縄文文化の故郷;群馬県多野郡上野村≪町村大合併を断固拒否した≫の冬景色
人口;1,389 人≪男 681 人･女 708 人≫交通信号機の無い日本唯一の村である。

☆「生きとし生きるものは世々生々の父母兄弟なり」親鸞☆

五箇山の獅子

☆富山県東砺波郡城端町の冬景色;奥は五箇山≪日本の古里･合掌集落平家落人伝説の平村≫

≪本記録の文責≫〒247－0073　神奈川県鎌倉市植木501－13≪藪野豊昭≫
kougyo-yabu@tbp.t-com.ne.jp　TEL0467－48－3053
【所属】　富山鮎と毛鉤懇話会;富山鮎毛鉤釣り研究会会員;日本鮎毛バリ釣り団体協議会;会報アドバイザー

☆わが心の故郷≪北陸一と謳われた≫鮎の名川･庄川≪雄神川≫再生は果して可能か？

✿鮎･サクラマスに満ち溢れていた庄川は、1930年以降17基のダムで寸断された。魚の遡上範囲は9%余りに激減し、河川工事は流路を直線化した。
✿ダムによって上流部からの土石供給は途絶、バブルに便乗した利権砂利採取は熾烈を極め、現在も継続される。鮎の産卵場や、多くの淵が消滅した。
✿過剰な発電取水によって庄川本流の水量は半減し、鮎･サクラマスの生育を阻害した。怒りを込めた瀕死の庄川再生の願いは、過剰無益なダム2基を、10年以内に改廃し砂利採取の即刻禁止を強く要望する。≪香魚迷≫所感、